

# 里山資本主義の道のり

地域づくりの視点からの森・バイオマス

人と人、人と自然、世代と世代、  
をつなぐ「バイオマス資源」



奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

# 経済性・生産性・効率性を追い求めた現代

## ・時間を価値化できるか・・・

1億数千万年前に、数千万年という時間の中で形成された石油を、

更に精製し、その最も貴重な部位「ガソリン」が、**1ℓ170円**は妥当か？

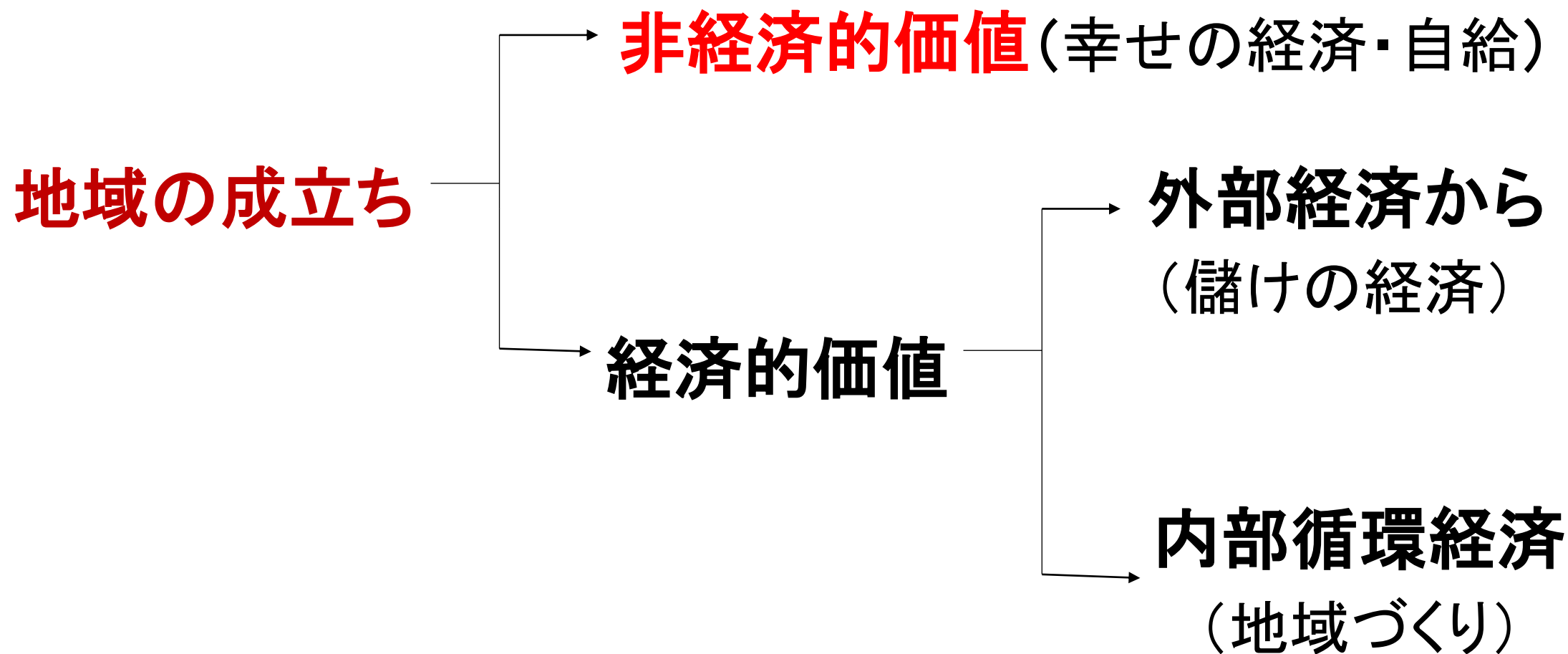
数百年生の木材を**1m<sup>3</sup>数千円**は妥当か？

## ・関係性を価値化できるか・・・

自分一人で、自分の価値観の中で生きる。無縁社会

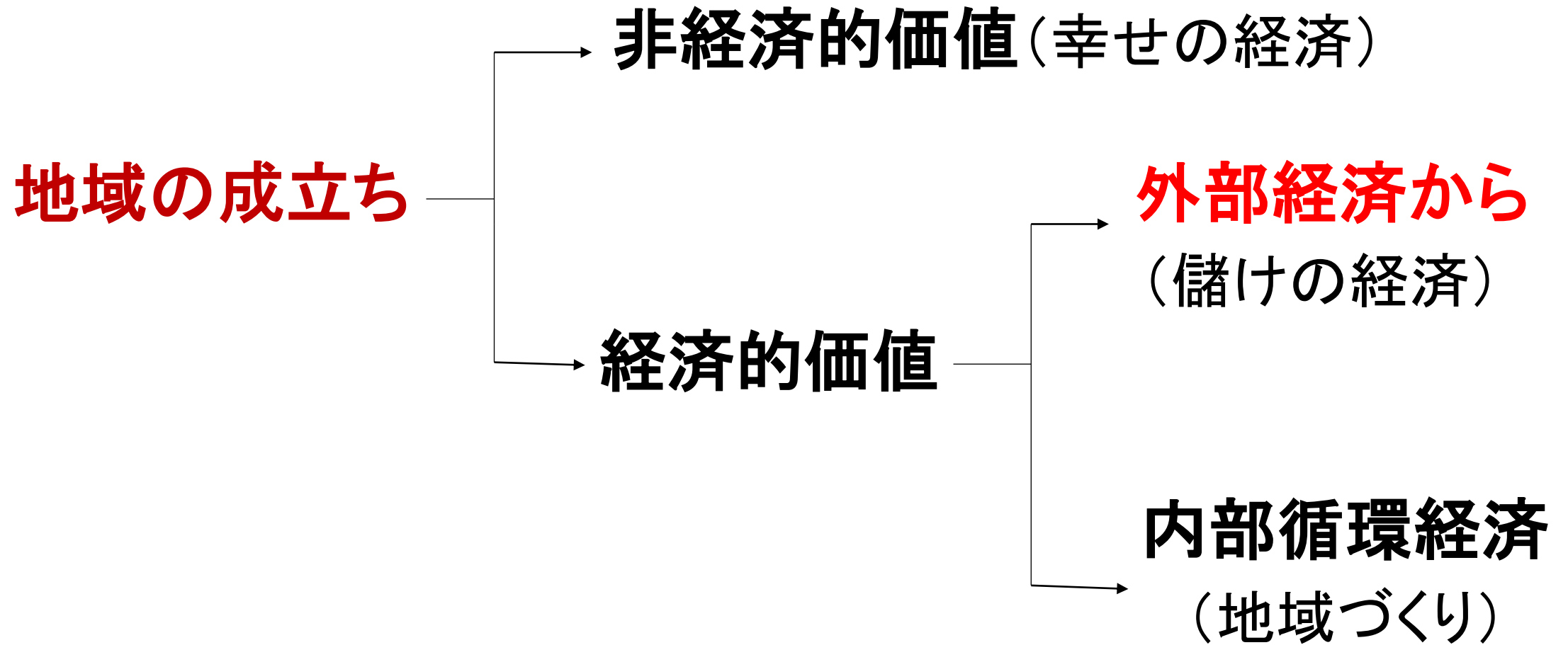
**価値とは何か？ 価格とはだれが決めるのか？**

# 地域とはどのようにして生きてきたか



## 非経済的価値(幸せの経済・経済統計にあがらない)

- **食料・エネルギー**の自給、採集、交換（自分を養い、分け合う）
- **結**、普請、共同作業（草刈、お宮の維持、田植え、屋根吹き・・・）
- 見守り、人と人のつながり、**寄り合い**
- **祭り**（社会教育、人材の育成・確保） ⇒ **関係性づくり**
- **水**の共同管理、**共有林**(財産区)の管理
- イベント（運動会、産直市・・・） **地域づくり、地域の自治、**
- 集落の「希望」作り、集落ビジョン **個人の幸せ、を構成する重要な要素**
- **心**の置き方(金儲けだけでは埋まらない幸せ)
- **郷土愛、誇り**
- 先祖、**神様**、自然、**景観**、**文化**・・・

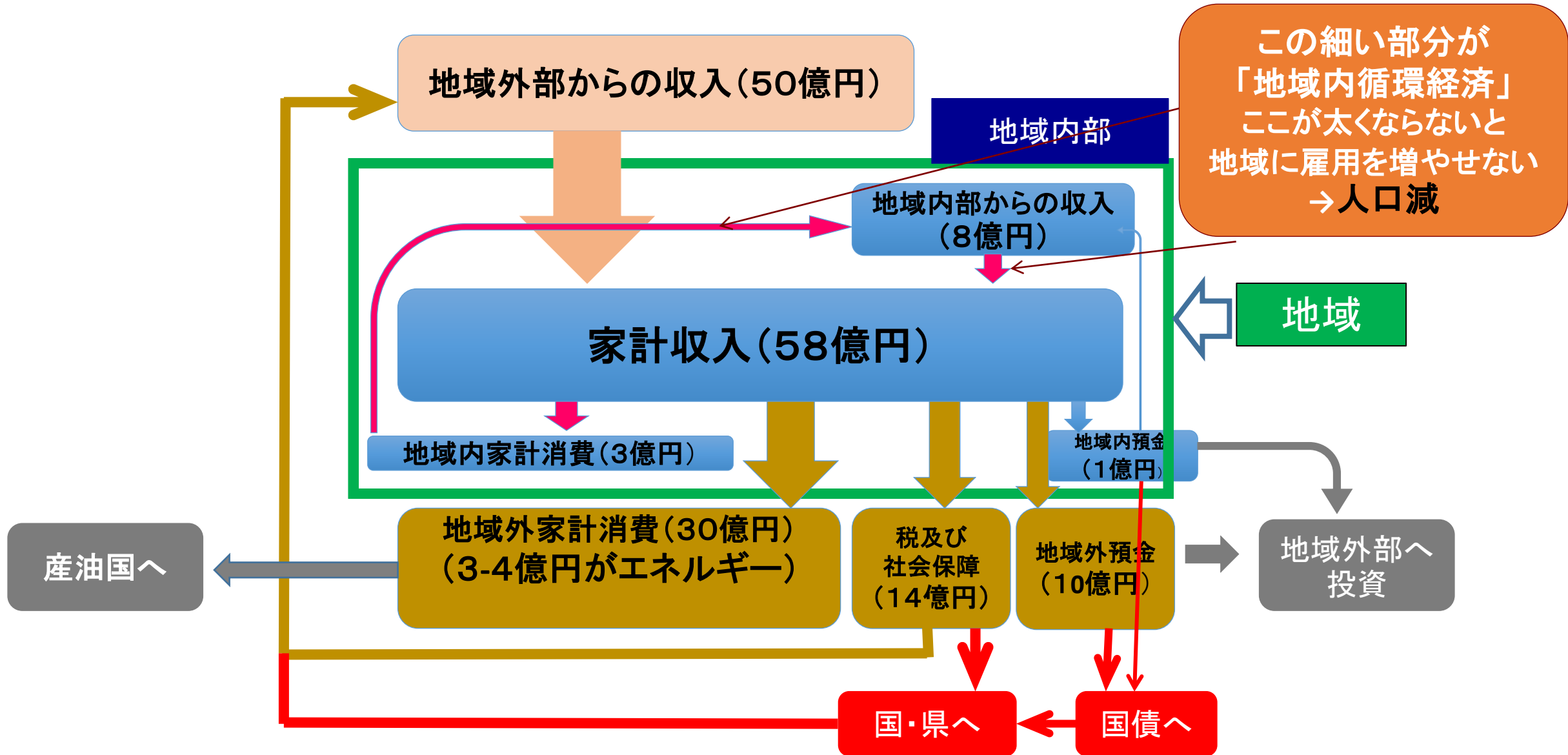


# 外部経済へのアプローチ

- ・産業の振興
- ・工場誘致      ・施設（ショッピング・モールやテーマパーク）建設
- ・ブランド化（地域特産品、農産物、コメ、・・・）
- ・グローバルマーケットへのアプローチ
- ・ネットショップの開設
- ・観光振興
- ・ふるさと納税      まだまだ、沢山のこと・・・

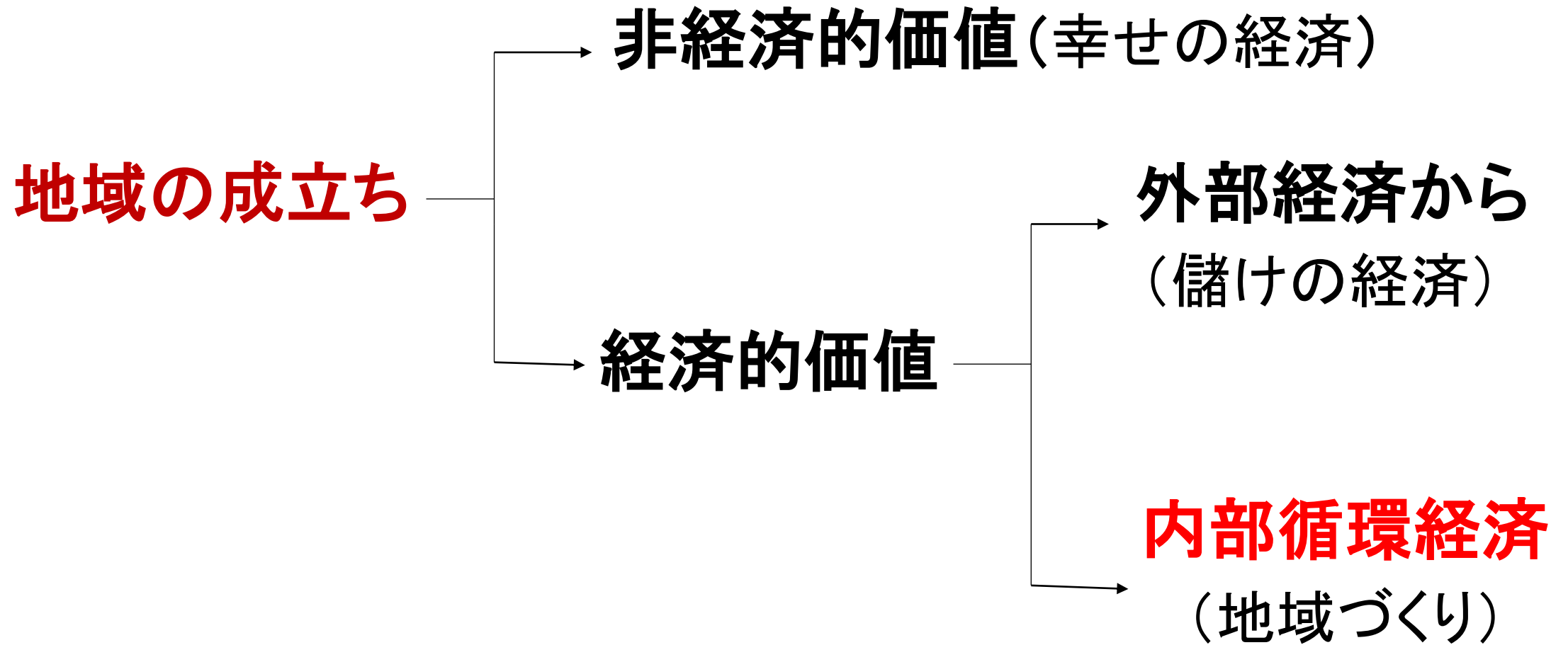


# 平均的な中山間地域、3000人集落(豊田市旭地区)のお金の循環



◆地域内でのお金の循環は殆どない。

(総理府統計局消費動向データ)



# 内部循環経済の拡大

## 地域内循環経済の構築

住民自治には**地域経営**という視点が必要、外からお金を稼ぐだけでは、地域は豊かにならない。

地域内でお金を循環させる仕組みが、**不可欠**！

**地域内循環経済の基礎**（60年前までは当たり前）

**エネルギー、食料、水、医療・福祉、教育、安全、公共工事、娯楽、**  
などの、自治（地域経営）、自給

- **食料費**

地域商店の利用拡大、地域食材・食品の地産地消  
地域通貨（木の駅と森券）、地域内米価（鳴子米）、  
6次産業化（パンの消費は1万円/人、1000人で1千万円）

- **エネルギー費**

確実に、地域外へ（国外へ）出て行っているお金  
新規事業のための、資金調達を考えるか、  
出て行くお金を、地域内で循環させるか。（**里山資本主義**）

- **娯楽**

カフェ、飲み屋、カラオケ、サロンなども、内部経済の重要な要素

- **地域木材の利用**

1000人集落では住宅約300戸、100年に一度建て替えても、

毎年約3戸の新築。その他、薪、チップ、ペレット…

地域材で家を建てると、地域に大工(雇用)が育つ

- **医療費、福祉費**

互助・共助・公助の確認

医療と福祉の壁の撤廃（電子カルテ化）

地域包括ケア

- **教育費**（高校で300万円、大学で1000万円）

塾の開設、廃校を学校に。若者の新たな価値観を育てる。

人材の育成・・・遠回りだが、一番の早道

# 岡山県真庭市の「里山資本主義」

人口約41,000人（岡山市の1/18）

面積828.43平方キロ（岡山市の1.1倍）

一林業・商業・工業

（森林率81%、うち人工林率61%）

○平成18年「バイオマスタウン」認定

○藻谷浩介氏とNHK取材班

「里山資本主義ー日本経済は安心の原理で動くー」

○「真庭バイオマス発電所」(1万キロワット)稼動

CLT (Cross Laminated Timber)も本格化







# 1997年につくられた「2010年 真庭人の1日」

～2010年の真庭人の1日～

西暦2010年、秋。

私、造り酒屋の均ちゃんですが、私の酒蔵では、10年ほど前から、タンクを洗う洗剤に、環境負荷の低い砂糖を原料としたものを使っている。

そんな私も、今年60歳の大人になり、聴はもともと白かったが、最近ではずこーし耳も遠くなってきた。それでも、真庭の川のせせらぎは、何か鮮明に聞こえる。

そして、毎年この季節になると、真庭の山や川、そして街角から、元気のいい子供達のもっとも楽しそうな声も聞こえてくる。それは小学生達の声だ。

私が小学生だった昭和30年代には、野外授業と呼ばれたもので、最近、真庭の小学校でも2年生の2学期を、全てこの授業にあてている。子供達は、野山や川を自由にかけ回りながら、自然の移り変わりや、そこに棲む動物や草花とふれあうのです。そうすることで、自然のもつ癒しさと楽しさ、そして何よりも、その自然と人とのふれあいの大切さを、身をもって学ぶのである。もともとここで生まれ育った真庭人にとって、自然と



西暦2010年、秋。

私、造り酒屋の均ちゃんですが、私の酒蔵では、**10年ほど前から、タンクを洗う洗剤に、環境負荷の低い、砂糖を原料としたものを使っている。**

そんな私も、今年60歳代になり、最近では少し耳も遠くなってきた。それでも、真庭の川のせせらぎは、**なぜか鮮明に聞こえる。**

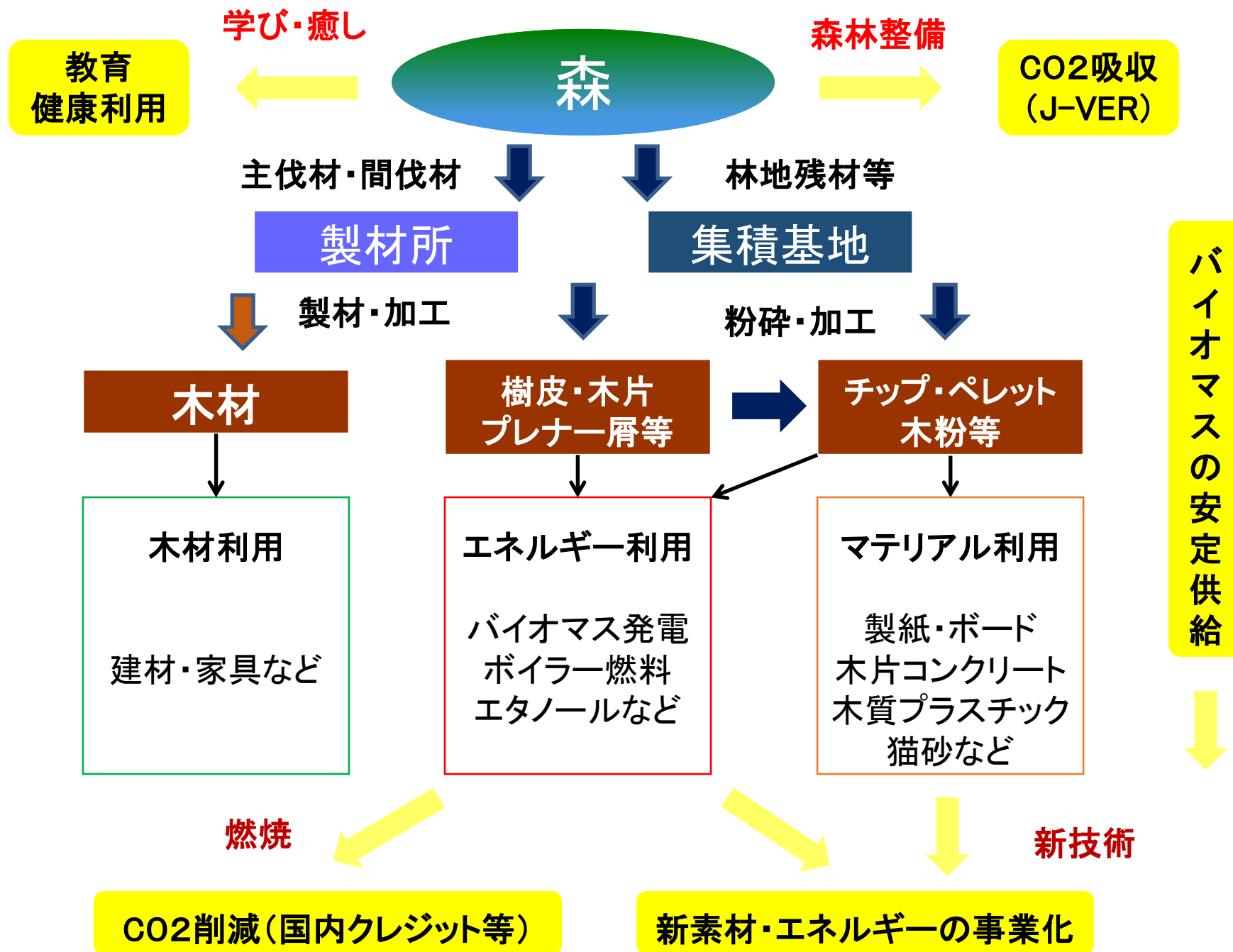
そして、**元気のいい子供たちの楽しそうな声も聞こえる。**

**子供たちに人気なのは、冬季の温水プールである。これには地元製材業の自家発電による電気と蒸気が使われている・・・**

# 山から町へ



バイオマス



# バイオマスエネルギー利活用導入設備一覧

(H30,1月末)

目的	設備名(導入数)	用途(箇所数)
発電	発電用蒸気ボイラ(2)	自社利用・売電(2)
熱利用	蒸気ボイラ(10)	木材乾燥(9)
		コンクリート製品養生(1)
	温水ボイラ(15)	温泉、プールの加温(3)
		ビニールハウスの加温(8)
		施設冷暖房(4)
ストーブ(約197)	民家、事務所等の暖房(ペレット115、薪82)	

# 岡山県真庭市 「里山資本主義」の世界

(2022年度)

- ◆未利用木質資源で発電 地域内エネルギー **自給率37.3%**
- ◆石油代替量約16.550kl/年を達成 → 石油を地域の木材に置き換え  
重油を120円/klと想定すると、**年間約20億円地消**
- ◆CO2削減量約433.500t-co2/年を達成

- ・地域外購入→地域内生産消費  
関係者の連携による、配送システム確立とエネルギーの自給
- ・木質バイオマス活用→森林資源の見直し  
林業の活性化と山村の再生 (**3億円が山に**)

## 木質バイオマスの学び

- **木**は、かさ張る、汚い、重い(**煩わしい**) → **地域内消費**がベスト
- ボイラー選定などの利用方法より → **収集・運搬システム**が重要  
(**誰が、いつ、いくらで、どのように…地域で決定、地域の自治**)
- 地域内の連携が不可欠 → エネルギー・素材事業のように見えて、  
内実は、**地域づくり事業**(**関係性作り**)

# 小さな里山資本主義

真庭市中和地区の取り組み（人口670人）









赤木 直人(あかぎ なおと)

1979年生まれ、大阪出身。

学生時代は岡山で過ごし、大学を中退後、**雑貨専門店**に入社。

岡山店所属時に妻と知りあい、子供の誕生をきっかけに、**妻の出身地**である、岡山県真庭市蒜山(ひるぜん)中和地域へと移住。

2015年5月、**薪の供給**と、  
地域振興を目的とする  
一般社団法人アシタカを設立。



## 現在の思い

真庭市に住んで7年目に、（一社）アシタカを設立しました。

それまで、住んでいる集落の事は分かっていましたが、

わずか人口650人、250世帯の中和地域の事は、

全く分かっていませんでした。

立ち上げ当初、その人の顔と名前、そしてその家族の状況まで

わかる方は、15世帯ほど。

1年たった現在、70世帯ほどの方は分かるようになりました。

650人という小さなスケールだからこそできる事があります。

わかる事があります。

5年後には地域全員の顔が見れるようになりたいと願います。

地域にお金を留まらせるため、地域の温泉施設が灯油ボイラから薪ボイラになりました。

それからすべてはスタートしていますが、

お金の地域内循環が大きな成果ではなく、

これをきっかけに**たくさんの方が関り**、そこに**話題が生まれ**、

昔のような**協調する仕組み**（自治）ができた事、

これが一番の成果であると思います。

赤木 直人

## 無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 他者への「無関心」「無視」

今だけ、お金だけ、自分だけ

愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、憎しみではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

「愛」のきっかけは、「興味を持つ」こと！

持続可能な社会をつくるには、

人と人、人と自然、世代と世代が、つながること

→ つながるには、お互いが関心と共感を持ち合う社会

(関係性の中にある幸せな社会、コミュニティで生きる)

豊かになった国「日本」は、

幸せになったのか ！？

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

## 「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。 **高度経済成長期の論理**

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ **関係性を価値とは認めない。**

(現在～これからの20年)  
「 **生きる意味を問う労働** 」  
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされ**、

**自然**の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持つ暮らし。

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する… **関係性は重要**

お金より**共感**や**協働**。共感できなくても、**共生**(そのための、自治)。

**Do** より **Be** が大切。働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える…

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」